



詳しい情報は熊本市感染症情報をご覧ください



令和6年(2024年)第36週 2024年9月2日(月)~2024年9月8日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



レジオネラ症

レジオネラ属菌による細菌感染症です。主な病型として、重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」が知られています。潜伏期間は、2~10日です。

レジオネラ属菌とは、自然界（河川、湖水、温泉や土壌など）に生息している細菌で、感染するとレジオネラ症を引き起こします。

症状について

レジオネラ肺炎は、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、寒気、胸痛、呼吸困難が見られるようになります。まれですが、心筋炎などの肺以外の症状が起こることもあります。また、意識レベルの低下、幻覚、手足が震えるなどの中枢神経系の症状や、下痢がみられるのもレジオネラ肺炎の特徴とされています。

ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛などの症状がみられますが、またそれらは一過性のもので、自然に治癒します。

感染経路と予防について

主にレジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル（細かい霧やしぶき）の吸入などによって、細菌が感染して発症します。

レジオネラ属菌はヒトからヒトへ感染することはありません。代表的なエアロゾル感染源としては、冷却塔水、加湿器や循環式浴槽などが報告されています。「汚れ」や「ぬめり」を落としてレジオネラ属菌が増殖しやすい環境をなくすことが大切です。

◆超音波振動などの加湿器を使用するときには、毎日水を入れ替えて容器を洗浄しましょう。



◆浴槽内に汚れやぬめりが生じないように定期的に洗浄等を行うなど、取扱説明書に従って維持管理しましょう。

高齢者や新生児は肺炎を起こす危険性が通常より高いので、注意が必要です。また、飲酒の量の多い人、喫煙者、透析患者、移植を受けた人や免疫機能が低下している人は、レジオネラ肺炎のリスクが高いとされています。

定点種別	疾患名	状況	35週(8/26~9/1)		36週(9/2~9/8)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
COVID-19	インフルエンザ	—	2	0.08	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	93	3.72	68	2.72
小児科	RSウイルス感染症	/	10	0.63	17	1.06
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	5	0.31	3	0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	47	2.94	19	1.19
	感染性胃腸炎	—	36	2.25	35	2.19
	水痘(みずぼうそう)	—	2	0.13	4	0.25
	手足口病	○	54	3.38	78	4.88
	伝染性紅斑(りんご病)	—	1	0.06	0	0.00
	突発性発しん	/	8	0.50	12	0.75
	ヘルパンギーナ	—	7	0.44	9	0.56
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	0	0.00	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	9	1.80	7	1.40
基幹	細菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	1	0.20	1	0.20
	マイコプラズマ肺炎	/	4	0.80	6	1.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし